玉置の仕事場

THE COMPLEAT OF READEY MADE CLOTHING

ONLINE LIVE WORKSHOP 220903

つぶれない立衿の作り方

パターン的には何の問題もない綺麗な立衿も、 ファスナーや前立の影響を受け、 ありえない潰れ衿になってしまうことが良くあります。 僕が長年携わったTHE NORTH FACEでもそうでしたが、付属に押され、衿やフードがうまく立ち上がらいという問題に悩まされました。

玉置の仕事場
website

玉置の仕事場
Instagram

■ つぶれる原因

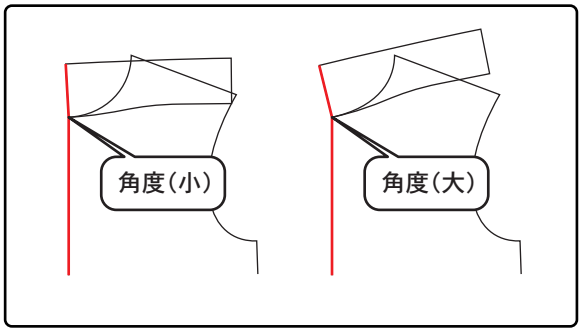
■ 1　部材とパターンが不適合

根本的な原因は、 ファスナーや前立が直線的（平面的）であるのに対し、 身頃と衿は角度を成して立体的に設計されているためです。 直線的（平面的）な部材は身頃と同一平面なので、 立体的に付いている衿をつぶそうとする力になります。

■ 2　衿と部材の力関係

衿が弱い（柔らかい） **VS** 部材が強い（硬い） **=** つぶれる

■ 3　縫製方法



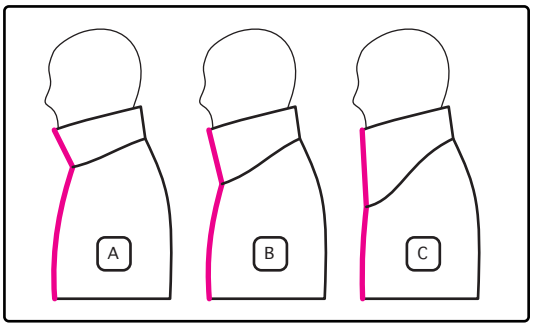
平面的に衿と身頃を前中心で重ねたとき、 前中心に於ける衿及び身頃の角度によって、 右の絵のように、 前中心線に角度が付きます。 直線的（平面的）ファスナーや前立などを地縫いする際、 この角度を無視して直線的に縫ってしまうと、 衿の立体構造は壊れ、 結果として衿はつぶれます。

■ 解決策

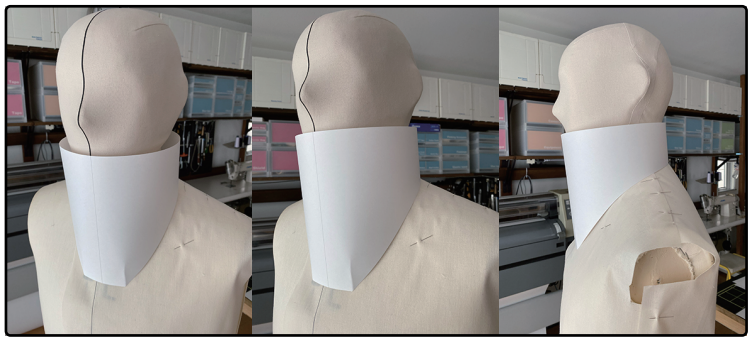
■ 1　部材の特性に合わせたパターン設計

ファスナーや前立が直線的（平面的）ならば、 衿も直線的（平面的）に作ればいいという考え方が成り立ちます。 つまり部材とパターンを同一平面として処理する方法です。 左はTHE NORTH FACE の商品ですがこうした考え方を取り入れて設計されています。

後述するような縫製テクニックを必要としないという点で、 他の解決策に比べ、 ベストな方法と言えます。 しかし総合的な機能面を考えると、 ベストとは言えない場合もありえます。



顎をすっぽり包み込める程度まで前中心を前方に出したい場合、 前下がり位置を下げることで A よりも B、B よりも C という具合に直線的になり、 ファスナーや前立と衿との関係性が矛盾（対立）しなくなります。



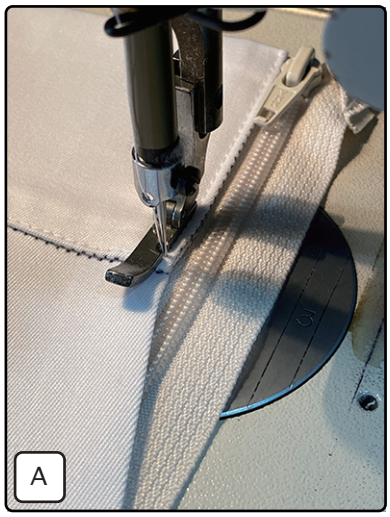
衿は（フードも同じ）完成予想図に近づくよう、 紙を使ったドレーピングで作ります。

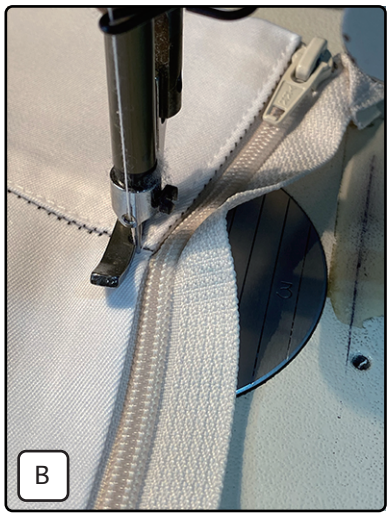
■ 2　衿と部材の力関係を変える

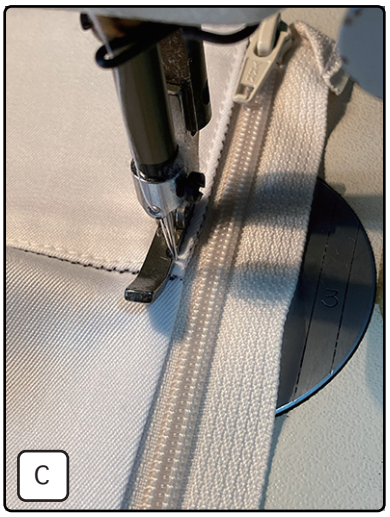
衿が強い（硬い） **VS** 部材が弱い（柔らかい） **=** 立つ

上の画像は衿にかなり厚手のしっかりした芯を貼り硬く仕上げています。 縫製方法は、 前中心で角度を付けず、上から下まで一気に直線的に縫っています。 またファスナーは 3C ニットテープのかなり柔らかいものを使用しています。 綺麗に立ち上がってきますが、 要するに力関係が逆転し、 衿の硬さにファスナーが負けている状態です。

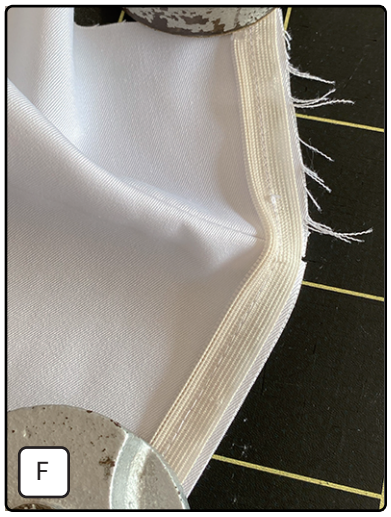
■ 3　ファスナー付けにひと手間かけた縫製方法







通常は衿と身頃にそれほどの角度が付かないため、 縫製工場は C のように直線状にセットし、 上から下まで一気に縫ってしまいます。 たとえ衿と身頃に角度がなくても、 本来は A のように衿グリで針を落とし、 B のように身頃に角度を付け、 これに合わせてファスナー折り曲げて縫製します。



このような縫製をする場合、 折り返した前端縫い代の距離が足りなくなるため、 衿の地縫いは、 前端から約 1 縫い代を残して止めなければなりません（画像 D）。 ファスナーテープの距離も不足しますが、 テープを切るわけにはいかないため、 E のようにファスナーテープをイセ込みます。 結果としてイセた分が縫い代の不足分となり、 ムシ側は余ることになり、 衿は綺麗に立ち上がるという仕組みです。